

鎮まれ山火事！眠れゾウ！研究員は引き返す！



自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

李 忠建

自然相手の調査は思い通りにならないものです。そうとは分かっているにもかかわらず、記憶に残る不運が2つあります。

私の研究テーマは大雑把に言うところ「植物の分類の見直し」です。必要なサンプルを集めるため、初めての海外調査でタイに行った時のこと。3日目の調査地は、山火事によってほぼ竹とバナナしか残っておらず、草むらだったところは灰になっていました。他のメンバーの探していた植物は見つかりませんでした。幸いにも、私の研究対象は1株だけ採集することができました。

2回目のタイ調査でも想定外がありました。4日目から別の調査地に移動したのですが、夜10時を回り、予定していた宿もそろそろかなと思っていた頃。道路の真ん中で、親子と思しき2頭の象がたむろしていて、車が進めなくなりました。刺激すると危険なので、しばらく様子を伺います。結局、象は動いてくれず、私たちは別の宿を探すことになりました。



遠くで竹が破裂する音が響く中、1時間半ほど登ると、火がゆっくりと登っているところに追いついてしまった。逆に危ないので、急遽別の調査地を探すことに。



先生の不安そうな声に、返事のない現地メンバー。

こういう危険は想定しておかないと不運では済まない。